

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	人間の尊厳と自立			担当教員名	君嶋 博明				
実務経験等	湘南医療福祉専門学校を設置する学校法人彩煌学園理事長。令和2年より25年以上運営に携わってきた社会福祉法人湘南遊愛会でも理事長に就任し特別養護老人ホームや軽費老人ホーム、居宅介護支援事業所等の運営を行っている。一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会では副会長及び横浜支部長として、県内専門学校が取り組むべきLGBTへの運営提言や神奈川県教育委員会と連携したインクルーシブ教育実践推進校に通う生徒へのキャリア支援など人権や尊厳をテーマにした活動についての陣頭指揮は多年に渡る。キャリアカウンセラー、公益社団法人横浜市福祉事業経営者理事でもある。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。										
到達目標	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。										
使用教材	中央法規出版 「人間の理解」						評価方法	筆記試験			
授業内容											
1	オリエンテーション					9	身体的自立とその支援				
2	人間とは・人間の尊厳					10	精神的自立とその支援				
3	人間尊重の法的根拠と社会福祉					11	社会的自立とその支援				
4	人間の尊厳と人権・福祉理念①					12	自立の概念②				
5	「自立」と「自律」					13	自己決定、自己選択、インフォームドコンセント				
6	人間の尊厳と人権・福祉理念②					14	リビングウェル、権利擁護、アドボカシー				
7	ノーマライゼーション、QOL					15	まとめ				
8	自立の概念①										
特記事項	各回終了後、振り返りとミニテストを実施										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	人間関係とコミュニケーション (1年後期)				担当教員名	松橋 あけみ			
実務経験等	<p>デイサービスにて相談員として6年、地域包括支援センターに社会福祉士として11年勤務。社会福祉士として相談業務にあたっている経験から、高齢になっても、障害があったとしても住み慣れた地域で生活していく為に必要な支援等について理解を深める授業を行う。</p>										
年次	1学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	<p>1節：自分と他者を理解するということ、自分と他者が影響しあっていることを学ぶ 2節：コミュニケーションの概念と言語的・非言語的コミュニケーションの特徴・機能 3節：対人援助関係を形成するための基本的態度や援助関係の原則 4節：チームで働くにあたって必要となる組織におけるコミュニケーションの特徴や方法など</p>										
到達目標	<p>対人援助である介護福祉士として人間関係形成のためのコミュニケーション能力を習得し、自己理解と他者理解を深められるようになる。 またコミュニケーションの意味や情報の受け渡しには様々な方法があることを理解し、適切な方法を選び実践できる力を養う。</p>										
使用教材	人間の理解 中央法規						評価方法	レポート、筆記試験			
授業内容											
1	オリエンテーション (授業概要の説明、自己紹介など)				9	第3節 対人援助関係とコミュニケーション ①人間関係発展、後退のコミュニケーションについて					
2	・援助者と利用者の援助関係とは ・専門性の福祉活動における援助関係の重要性について事例を通して学ぶ				10	②対人援助における基本的態度 (受容・傾聴・共感)					
3	・介護福祉士にもとめられる援助の視点				11	③バイステックの7つの原則					
4	第1節人間と人間関係 ①人間らしさのはじまり ②自分と他者の理解				12	③バイスティックの7つの原則、事例を通して理解を深める					
5	③発達心理学からみた人間関係				13	第4節 組織におけるコミュニケーション ①組織の条件とコミュニケーションの特徴 ②組織における情報の流れ					
6	④社会心理学からみた人間関係 ⑤人間関係とストレス				14	③組織においてもとめられるコミュニケーション					
7	・ビデオ「キャンパスライフ」 ・マッピング技法について				15	これまでのふり返し、まとめ					
8	第2節 対人関係におけるコミュニケーション ①コミュニケーションの概念、基本構造、手段など					期末試験					
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	社会の理解（1年前期）				担当教員名	井沢 潤			
実務経験等	特別養護老人ホームでの生活相談員として勤務。 実務経験から想定される、介護福祉士に必要なとされる社会保障に関する知識を中心に、我が国の社会、介護保険制度、障害者総合支援法、その他関連諸制度を学ぶ。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会に関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。										
到達目標	現代の日本の社会を理解する上での基本的な内容を学ぶ。										
使用教材	中央法規出版 社会と制度の理解ミネルヴァ書房 社会福祉小六法						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	オリエンテーション、社会保障、社会福祉					9	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（しくみの基本的理解：保険者・被保険者・保険料・財源）				
2	社会と生活のしくみ／生活の基本機能・ライフスタイルの変化					10	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（しくみの基本的理解：保険給付・認定・手続き）				
3	社会と生活のしくみ／地域、地域社会・地域社会における生活支援					11	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（しくみの基本的理解：手続き・自己負担）				
4	地域共生社会の実現に向けた制度や施策／地域福祉の発展・地域共生社会					12	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（しくみの基本的理解：サービスの種類と内容／居宅サービス）				
5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策／地域包括ケア 高齢者保健福祉と介護保険制度／高齢者保健福					13	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（しくみの基本的理解：サービスの種類と内容／施設サービス）				
6	高齢者保健福祉と介護保険制度／高齢者保健福祉の動向・関連する法体系					14	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（しくみの基本的理解：サービスの種類と内容／地域密着型サービス）				
7	高齢者保健福祉と介護保険制度／関連する法体系・介護保険制度（制度創設の背景と目的）					15	試験範囲、まとめ				
8	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（制度創設の背景と目的）										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	社会の理解（1年後期）			担当教員名	井沢 潤				
実務経験等	特別養護老人ホームでの生活相談員として勤務。 実務経験から想定される、介護福祉士に必要とされる社会保障に関する知識を中心に、我が国の社会、介護保険制度、障害者総合支援法、その他関連諸制度を学ぶ。										
年次	1学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	自身の生活を通じて地域や福祉の理解をし、自身を取り巻く制度を理解する。										
到達目標	社会福祉や社会保障の基本的な内容を学ぶ。										
使用教材	社会と制度の理解 中央法規出版ミネルヴァ書房 社会福祉小六法						評価方法	筆記試験			
授業内容											
1	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（しくみの基本的理解：地域支援事業）				9	障害者保健福祉と障害者総合支援制度／関する制度（障害児支援）・障害者総合支援法（目的・役割）					
2	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（しくみの基本的理解：地域支援事業、組織、団体の役割）				10	障害者保健福祉と障害者総合支援制度／障害者総合支援法（自立支援給付・地域生活支援事業）					
3	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（制度の動向①）				11	障害者保健福祉と障害者総合支援制度／障害者総合支援法（財源と利用者負担・利用手続き）					
4	高齢者保健福祉と介護保険制度／介護保険制度（制度の動向②）				12	障害者保健福祉と障害者総合支援制度／障害者総合支援法（利用手続き・支援区分認定）					
5	障害者保健福祉と障害者総合支援制度／障害者保健福祉の動向（障害とは・障害者をめぐる現状・生活実態）				13	介護実践に関連する諸制度／個人の権利を守る制度					
6	障害者保健福祉と障害者総合支援制度／障害者の定義・関する制度（歴史・理念）				14	介護実践に関連する諸制度／貧困と生活困窮に関する制度					
7	障害者保健福祉と障害者総合支援制度／関する制度（理念・自立支援法から総合支援法へ）					試験対策 まとめ					
8	障害者保健福祉と障害者総合支援制度／関する制度（障害者保健福祉の法律）										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	昭和期の生活理解				担当教員名	藤井 利彦			
実務経験等	1976年～2017年まで、川崎市内の中学校で社会科の教職に就く。 現在、複数の学校で非常勤講師を務めている。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	昭和期の生活文化を学び、高齢者への聞き取り調査にて理解する。										
到達目標	介護を行う上で多くのかかわりをもつ高齢者が過ごしてきた昭和という時代。その文化の中でどのように生活してきたかを知ることは、利用者理解に際し大変重要なことである。利用者が人生をどのように昭和という文化環境の中を歩み、どのような価値観に至ったかを知る為に当時の生活する様子や時代背景、文化を把握することを目的とする。										
使用教材							評価方法	筆記 レポート			
授業内容											
1	初めに (昭和の歴史を学ぶ意味、「聞き取り発表」の 順番決め、介護の歴史)					9	高度経済成長 (ビデオ)				
2	昭和の歴史の概観 (視聴覚機材)					10	経済大国へ 聞き取り発表				
3	「聞き取り発表」の方法・具体例 (パソコン)					11	平成の日本 聞き取り発表				
4	流行歌でつづる昭和史 (ネットに繋がるパソコン)					12	家族生活の変化 聞き取り発表				
5	不景気から戦争へ (ビデオ)					13	衣食住・道具の変化 聞き取り発表				
6	アジア太平洋戦争 (ビデオ)					14	戦争を考える 聞き取り発表 (視聴覚教材)				
7	戦時下の国民生活 (視聴覚教材)					15	職に就くこととは まとめ 聞き取り発表 (予備日)				
8	占領から復興へ (ビデオ)										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護における文章・記録（1年前期）				担当教員名	木村 智浩			
実務経験等	中学校、高等学校（国語）講師として20年勤務。 小論文指導の経験から、他人にわかりやすく、的確に伝えることのできる文章力が身につく授業を行う。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	論理的文章の構成を学び作成する。また、自身の実習日誌を適切に書くことができ、他者に伝わる文章力を身につける。										
到達目標	社会人としてはもちろん、介護の現場において必要な文章力や表現力、他者に分かりやすい記録の方法などを学び、実習の日誌が論理的に書けるようになる。										
使用教材	なし 資料配布国語辞典（電子辞書可）を用意しておくことよ						評価方法	筆記試験（小論文）			
授業内容											
1	オリエンテーション、GW					9	グループワーク				
2	コミュニケーションの基礎					10	敬語を使ったコミュニケーション				
3	自己表現・文体について					11	敬語の使い分けについて				
4	原稿用紙の使い方					12	論理的な文章の書き方				
5	文章の構成					13	論理的な文章を書く①				
6	文章表現①					14	論理的な文章を書く②				
7	文章表現②					15	既習事項の復習・まとめ				
8	文章の推敲										
特記事項	積極的な授業参加、発言を期待します。										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護における文章・記録（1年後期）				担当教員名	木村 智浩			
実務経験等	中学校、高等学校（国語）講師として20年勤務。 小論文指導の経験から、他人にわかりやすく、的確に伝えることのできる文章力が身につく授業を行う。										
年次	1学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	論理的文章の構成を学び作成する。また、自身の実習日誌を適切に書くことができ、他者に伝わる文章力を身につける。										
到達目標	社会人としてはもちろん、介護の現場において必要な文章力や表現力、他者に分かりやすい記録の方法などを学び、実習の日誌が論理的に書けるようになる。										
使用教材	なし 資料配布国語辞典（電子辞書可）を用意しておくことよ						評価方法	筆記試験（小論文）			
授業内容											
1	実習日誌の書き方					9	グループワーク				
2	実習日誌を書く①					10	ディベートの効用				
3	実習日誌を書く②					11	介護におけるコミュニケーション①				
4	実習日誌を書く③					12	介護におけるコミュニケーション②				
5	履歴書の書き方					13	課題小論文の書き方				
6	履歴書を書く					14	課題小論文を書く				
7	手紙の書き方					15	既習事項の復習・まとめ				
8	手紙を書く										
特記事項	積極的な授業参加、発言を期待します。										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅰ（1年前期）				担当教員名	樋口 洋一			
実務経験等	特別養護老人ホームで介護職員として従事。 介護主任を経て生活相談員として施設全体をサポート。 2022年4月よりケアワーカー長兼相談員かつ施設ケアマネ部門長 現在に至る。 2016年～5年間 福祉系専門学校非常勤講師も兼任										
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	講義と演習										
到達目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。										
使用教材	介護の基本Ⅰ 中央法規						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	オリエンテーション 【介護福祉を必要とする人の理解】を学ぶ理由					9	介護の概念の変遷：2000年以降② 演習1-2				
2	介護の成り立ち：介護の成り立ち①					10	介護の概念の変遷：演習1-2				
3	介護の成り立ち：介護の成り立ち②					11	介護福祉の基本理念：介護福祉の理念とは／尊厳を支える介護①				
4	介護の成り立ち：専門職が誕生した社会的な背景 演習1-1					12	介護福祉の基本理念：尊厳を支える介護②				
5	介護の概念の変遷：1970年代、1980年代					13	介護福祉の基本理念：自立を支える介護①				
6	介護の概念の変遷：1990年代①					14	介護福祉の基本理念：自立を支える介護② 演習1-3				
7	介護の概念の変遷：1990年代②					15	まとめ				
8	介護の概念の変遷：2000年以降①										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅰ（1年後期）				担当教員名	樋口 洋一			
実務経験等	<p>特別養護老人ホームで介護職員として従事。 介護主任を経て生活相談員として施設全体をサポート。 2022年4月よりケアワーカー長兼相談員かつ施設ケアマネ部門長 現在に至る。 2016年～5年間 福祉系専門学校非常勤講師も兼任</p>										
年次	1学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	講義と演習										
到達目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。										
使用教材	介護の基本Ⅰ 中央法規						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	前期振り返り					9	介護福祉士を支える団体				
2	【介護福祉士の役割と機能】社会福祉士及び介護福祉士法① 演習①					10	介護福祉士の倫理① 介護実践における倫理演習				
3	【介護福祉士の役割と機能】社会福祉士及び介護福祉士法② 演習②					11	介護福祉士の倫理② 倫理的対応が必要な事例演習				
4	【介護福祉士の役割と機能】 介護福祉士の役割① 地域包括ケアシステム・介護予防において 演習					12	介護福祉士の倫理③ 演習				
5	【介護福祉士の役割と機能】 介護福祉士の役割② 医療的ケア・人生の最終段階の支援① 演習					13	日本介護福祉士会倫理綱領①				
6	【介護福祉士の役割と機能】 介護福祉士の役割③ 人生の最終段階の支援② 災害時の支援 演習					14	日本介護福祉士会倫理綱領②				
7	介護福祉士に求められる役割とその養成①					15	まとめ				
8	介護福祉士に求められる役割とその養成②										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅱ（1年前期）				担当教員名	川村 亜希			
実務経験等	介護福祉士として、訪問介護、特別養護老人ホームに通算6年 介護福祉として介護現場の経験から、事例に基づき介護の実際や現場の課題について理解を深める授業を行う。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	介護、専門価値、倫理、役割										
到達目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。										
使用教材	「介護の基本Ⅱ」中央法規出版 2200円						評価方法	筆記 レポート			
授業内容											
1	オリエンテーション					9	【介護福祉職を必要とする人たちの暮らし】介護福祉職を必要とする障害者の暮らし				
2	介護のイメージ					10	その人らしさと生活ニーズの理解				
3	介護のイメージ発表					11	【生活のしづらさの理解とその支援】生活のしづらさについて考える				
4	【私たちの生活の理解】生活とは何か					12	【生活のしづらさの理解とその支援】家族介護者への支援				
5	【私たちの生活の理解】生活の特性（地域特性・調べ）					13	利用者の生活を支えるしくみ				
6	【私たちの生活の理解】生活の特性（地域特性・発表）					14	地域包括ケアシステム				
7	【私たちの生活の理解】生活の特性（地域特性・発表）					15	まとめ				
8	【介護福祉職を必要とする人たちの暮らし】介護福祉職を必要とする高齢者の暮らし										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅱ（1年後期）			担当教員名	川村 亜希				
実務経験等	介護福祉士として、訪問介護、特別養護老人ホームに通算6年 介護福祉として介護現場の経験から、事例に基づき介護の実際や現場の課題について理解を深める授業を行う。										
年次	1学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	介護、専門価値、倫理、役割										
到達目標	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。										
使用教材	「介護の基本Ⅱ」中央法規出版 2200円						評価方法	筆記、レポート			
授業内容											
1	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス				9	地域連携					
2	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス				10	多職種・協働の必要性					
3	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス				11	多職種連携・協働に求められる基本的な能力					
4	【生活を支えるフォーマルサービス】高齢者のためのフォーマルサービス				12	保健・医療・福祉職の役割と機能					
5	【生活を支えるフォーマルサービス】障害者のためのフォーマルサービス				13	健康管理の意義と目的					
6	【生活を支えるフォーマルサービス】障害者のためのフォーマルサービス				14	労働環境の整備					
7	【生活を支えるフォーマルサービス】障害者のためのフォーマルサービス				15	まとめ					
8	生活を支えるインフォーマルサービス										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	コミュニケーション技術（1年前期）				担当教員名	野本 義則			
実務経験等	<p>・病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務（入院作業療法、精神科デイケア、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務（入所リハビリテーション、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション） 作業療法士として長年病院という医療現場に従事した経験から、コミュニケーション論について講義を行う。 ・作業療法士として長年、介護保険領域のリハビリテーションに従事した経験から、発達と老化の理解について講義を行う。</p>										
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	コミュニケーションの理解と実際の手法を学ぶ。										
到達目標	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。										
使用教材	「コミュニケーション技術」中央法規出版 2200円						評価方法	<small>※記載：授業の履修と関係のない履修情報・レポート、これは履修後に付する。</small>			
授業内容											
1	オリエンテーション グループ学習について				9	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション②					
2	自己概念				10	自己主張とコンセンサス					
3	自己を知る必要性				11	傾聴					
4	価値観				12	準言語・非言語					
5	印象と実際 思い込み				13	質問①					
6	介護におけるコミュニケーションの基本①				14	質問②					
7	介護におけるコミュニケーションの基本②				15	まとめ					
8	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション①										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅰ（1年前期）A班	担当教員名	佐藤 佐代子、中野 都子						
実務経験等	<p>佐藤佐代子先生 人間ドックに付随する栄養相談室にて予防栄養、病態栄養についての栄養相談を管理栄養士として5年勤務。病院の疾病別の献立作成に管理栄養士として5年勤務。特別養護老人ホームに管理栄養士として栄養マネジメント、栄養管理をし17年勤務する。一人一人の幸福を栄養、食事を通して考える授業を行う。</p> <p>中野都子先生 共同生活介護施設にて、支援員として3年勤務。高等学校・介護系高等専修学校・専門学校で非常勤講師として30年勤務。年々変化するライフスタイルをふまえ、自分自身が生活に必要な知識や技術を身に付け、自立へとつなげる授業を行う。得た知識や技術を他者の生活の援助にどう応用できるか具体的に取り上げる。</p>										
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要	家事、献立と栄養・調理、被服の役割と管理、居住環境の整備										
到達目標	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
使用教材	中央法規出版 生活支援技術Ⅰ						評価方法		筆記試験、実技小テスト		
授業内容											
1	オリエンテーション 身だしなみの確認					16	野菜の切り方				
2	介護福祉士の役割 （訪問介護サービスの不適切事例）					17	居住環境の目的と意義 住まいの役割と機能				
3	介護福祉士の役割 （生活支援をするための介護福祉の役割）					18	居住環境の整備 安全に暮らすための環境				
4	利用者の全体像をとらえる重要性					19	高齢者の住環境の整備 安全に暮らすための環境				
5	自立した家事（調理）の一連の流れ 調理器具の説明、電子レンジの活用法					20	高齢者・障害者の住まい 快適な生活空間を作る				
6	嚥下食・治療食佐代子の作り方					21	自立に向けた家事の介護 汚れの性質と洗剤の知識を踏まえた掃除				
7	食品の保存 食品衛生、食中毒予防					22	自立に向けた家事の介護 快適な衣生活のための衣服管理				
8	「食べる」にかかわる高齢者の身体変化					23	自立に向けた家事の介護 衣服材料の種類と性質				
9	自立した家事（洗濯）の一連の流れ 洗濯支援の実際、しみ抜き方法					24	自立に向けた家事の介護 洗剤の種類、柔軟剤、漂白剤の使用法				
10	自立した家事（買い物）の一連の流れ 買い物支援の実際					25	自立に向けた家事の介護 洗剤の種類、柔軟剤、漂白剤の使用法				
11	自立した家事（掃除）の一連の流れ 住宅各所の清掃のポイント					26	衣生活（基礎縫い） 並縫い・半返し縫い・本返し縫い				
12	自立した家事（ごみ捨て）の一連の流れ ゴミが捨てられない理由と対象					27	衣生活（基礎縫い） まつり縫い・ボタン付け				
13	介護食の献立の立て方について					28	衣生活（基礎縫い） 基礎縫いを利用して作品を仕上げる				
14	国試過去問					29	衣生活（基礎縫い） 基礎縫いを利用して作品を仕上げる				
15	とろみ食の作り方 野菜の切り方					30	まとめと復習 試験の説明				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程		科目名	生活支援技術Ⅰ（1年前期）B班			担当教員名	佐藤 佐代子、中野 都子			
実務経験等	<p>佐藤佐代子先生 人間ドックに付随する栄養相談室にて予防栄養、病態栄養についての栄養相談を管理栄養士として5年勤務。病院の疾病別の献立作成に管理栄養士として5年勤務。特別養護老人ホームに管理栄養士として栄養マネジメント、栄養管理をし17年勤務する。一人一人の幸福を栄養、食事を通して考える授業を行う。</p> <p>中野都子先生 共同生活介護施設にて、支援員として3年勤務。高等学校・介護系高等専修学校・専門学校で非常勤講師として30年勤務。年々変化するライフスタイルをふまえ、自分自身が生活に必要な知識や技術を身に付け、自立へとつなげる授業を行う。得た知識や技術を他者の生活の援助にどう応用できるか具体的に取り上げる。</p>										
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要	家事、献立と栄養・調理、被服の役割と管理、居住環境の整備										
到達目標	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
使用教材	中央法規出版 生活支援技術Ⅰ						評価方法	筆記試験、実技小テスト			
授業内容											
1	オリエンテーション 身だしなみの確認					16	野菜の切り方				
2	介護福祉士の役割 (訪問介護サービスの不適切事例)					17	居住環境の目的と意義 住まいの役割と機能				
3	介護福祉士の役割 (生活支援をするための介護福祉の役割)					18	居住環境の整備 安全に暮らすための環境				
4	利用者の全体像をとらえる重要性					19	高齢者の住環境の整備 安全に暮らすための環境				
5	自立した家事（調理）の一連の流れ 調理器具の説明、電子レンジの活用法					20	高齢者・障害者の住まい 快適な生活空間を作る				
6	嚥下食・治療職の作り方					21	自立に向けた家事の介護 汚れの性質と洗剤の知識を踏まえた掃除				
7	食品の保存 食品衛生、食中毒予防					22	自立に向けた家事の介護 快適な衣生活のための衣服管理				
8	「食べる」にかかわる高齢者の身体変化					23	自立に向けた家事の介護 衣服材料の種類と性質				
9	自立した家事（洗濯）の一連の流れ 洗濯支援の実際、しみ抜き方法					24	自立に向けた家事の介護 洗剤の種類、柔軟剤、漂白剤の使用法				
10	自立した家事（買い物）の一連の流れ 買い物支援の実際					25	自立に向けた家事の介護 洗剤の種類、柔軟剤、漂白剤の使用法				
11	自立した家事（掃除）の一連の流れ 住宅各所の清掃のポイント					26	衣生活（基礎縫い） 並縫い・半返し縫い・本返し縫い				
12	自立した家事（ごみ捨て）の一連の流れ ゴミが捨てられない理由と対象					27	衣生活（基礎縫い） まつり縫い・ボタン付け				
13	介護食の献立の立て方について					28	衣生活（基礎縫い） 基礎縫いを利用して作品を仕上げる				
14	国試過去問					29	衣生活（基礎縫い） 基礎縫いを利用して作品を仕上げる				
15	とろみ食の作り方 野菜の切り方					30	まとめと復習 試験の説明				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅱ（1年前期）				担当教員名	手塚 ミユキ			
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。 また、介護福祉士に必要とされる介護過程の思考力、実践力の基礎を養う。</p>										
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要	介護技術を習得し、生活支援にどのように活用するか学ぶ。										
到達目標	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
使用教材	「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 2200円						評価方法	筆記 実技 レポート			
授業内容											
1	オリエンテーション、教室のルール、班分け					16	移動の介護 端座位から立位へ				
2	アイスブレイク 生活支援の理解：生活支援とは何か					17	移動の介護 端座位から立位へ				
3	高齢者体験					18	車いすの介助（構造・姿勢・使い方、ベッドから移乗）				
4	高齢者体験、レポート					19	車いすの介助（ベッドからの移乗：一部介助、全介助）				
5	休息・睡眠とは、ベッドメイク（2人）					20	車いすの介助（ベッドから移乗：ティッピングレバーの使い方）				
6	休息・睡眠とは、ベッドメイク					21	移動の介護 段差昇降				
7	ベッドメイク（1人）					22	移動の介護 杖歩行（杖の安全確認、2動作、3動作）				
8	ベッドメイク（1人）					23	移動の介護 杖歩行（段差越え、階段昇降）				
9	ベッドメイク テスト					24	移動の介護 杖歩行（段差越え、階段昇降）				
10	ベッドメイク テスト					25	生活の理解 福祉用具の意義				
11	移動の介護					26	前期実技試験課題発表				
12	移動の介護（上方移動）					27	福祉用具の種類				
13	移動の介護（上方移動・仰臥位→側臥位）					28	前期期末試験 課題ポイント説明				
14	仰臥位から側臥位（一部介助・全介助）・対面法・背面法					29	移動の介護 段差昇降				
15	移動の介護 起き上がりから端座位へ					30	移動の介護 段差昇降				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅱ（1年後期）	担当教員名	手塚 ミユキ						
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。 また、介護福祉士に必要とされる、介護過程の思考力、実践力の基礎を養う。</p>										
年次	1学年	開講期		種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要	介護技術を習得し、生活支援にどのように活用するか学ぶ。										
到達目標	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。										
使用教材	「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版 2200円			評価方法	筆記 実技 レポート						
授業内容											
1	前期実技試験解説		16	入浴・清潔保持の介護 洗髪の実際							
2	後期ガイダンス・身支度の介護		17	食事の介護							
3	身支度の介護 前開きパジャマ・かぶり上衣		18	食事の介護 水分摂取の実際							
4	身支度の介護 ズボン、上下更衣（座位）		19	食事の介護 座位での介助							
5	身支度の介護 座位での上下更衣		20	食事の介護 臥位での介助							
6	身支度の介護 臥位での上下更衣		21	身支度の介護 口腔ケア（座位）							
7	身支度の介護 臥位での上下更衣		22	身支度の介護 口腔ケア（臥位）							
8	身支度の介護 寝巻の更衣		23	排泄の介護							
9	入浴・清潔保持の介護 自立した入浴・清潔保持とは		24	排泄の介護 おむつ吸水の実験							
10	多職種との連携 入浴の実際		25	入浴・清潔の介護 入浴体験							
11	入浴・清潔保持の介護 清拭の実際		26	入浴・清潔の介護 入浴体験							
12	入浴・清潔保持の介護 清拭の実際		27	排泄の介護 トイレでの介護							
13	入浴・清潔保持の介護 足浴の実際		28	排泄の介護 ポータブルトイレでの排泄							
14	入浴・清潔保持の介護 足浴の実際		29	排泄の介護 ポータブルトイレでの排泄							
15	入浴・清潔保持の介護 洗髪の実際		30	期末試験対策							
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護過程（1年後期）				担当教員名	手塚 ミユキ			
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。 また、介護福祉士に必要とされる、介護過程の思考力、実践力の基礎を養う。</p>										
年次	1学年	開講期		種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要	介護過程の目的、しくみの理解、アセスメント・立案方法										
到達目標	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。。										
使用教材							評価方法	レポート、筆記			
授業内容											
1	介護過程とは					16	演習①（事例：アセスメント）				
2	介護過程の意義					17	演習①（事例：計画準備）				
3	介護過程の展開とICF					18	演習①（事例：具体的援助内容）				
4	認知症の利用者の真のニーズの捉え方					19	情報収集の方法、ポイント				
5	アセスメント演習、推測する					20	2年生介護過程発表会見学				
6	根拠のある推測、予測					21	2年生介護過程発表会見学				
7	専門知識で統合、演習					22	演習②（個別事例：情報収集）				
8	その人らしい情報で解釈、演習					23	演習②（個別事例：アセスメント）				
9	情報の解釈、関連付け、統合化					24	演習②（個別事例：アセスメント）				
10	悪い予測と良い予測					25	演習②（個別事例：計画準備）				
11	課題の明確化、課題の表現の仕方					26	演習②（個別事例：計画準備）				
12	課題の優先順位					27	具体的援助内容				
13	長期目標と短期目標					28	具体的援助内容				
14	具体的援助内容					29	パーキンソン病事例（アセスメント演習）				
15	計画準備シート（計画の枠組み）					30	パーキンソン病事例（アセスメント演習）				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護総合演習（1年前期）				担当教員名	手塚 ミユキ			
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。 また、介護福祉士に必要とされる、介護過程の思考力、実践力の基礎を養う。</p>										
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	社会性、マナー、実習施設概要理解、目標理解										
到達目標	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。										
使用教材							評価方法	筆記試験 課題取り組み姿勢 提出物			
授業内容											
1	オリエンテーション、実習の進め方					9	日誌書き直し、実習振り返り				
2	I-①配属、実習施設の種類と概要					10	実習振り返り				
3	【実習施設の概要】認知症対応型共同生活					11	実習I-②施設種類、実習目標確認				
4	【実習施設の概要】救護施設、障害者支援施設、地域活動支援センター					12	実習振り返り、実習I-②概要				
5	実習前オリエンテーション					13	実習振り返り、考察練習				
6	実習の行動目標、実習振り返り					14	実習振り返り、考察練習				
7	実習振り返り、歌集配布					15	実習I-②事前オリエンテーション説明				
8	実習の振り返り										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護総合演習（1年後期）			担当教員名	手塚 ミユキ				
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。 また、介護福祉士に必要とされる、介護過程の思考力、実践力の基礎を養う。</p>										
年次	1学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	レクリエーション計画の計画・実践方法を学ぶ										
到達目標	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。										
使用教材							評価方法	筆記試験 課題取り組み姿勢 提出物			
授業内容											
1	考察練習					9	実習振り返り、日誌清書				
2	レクリエーションの意義、目的					10	実習振り返り、日誌清書				
3	実習Ⅰ－②直前オリエンテーション					11	【実習施設の概要】特別養護老人ホーム				
4	レクリエーション 発表					12	【実習施設の概要】特別養護老人ホーム				
5	レクリエーション発表					13	【実習施設の概要】介護老人保健施設				
6	レクリエーション発表					14	実習Ⅱ－①学校目標、オリエンテーション				
7	実習振り返り、日誌清書					15	情報収集の説明、実習Ⅰ－②まとめ				
8	実習振り返り、日誌清書										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護総合演習	通年	担当教員名	専任				
実務経験等	障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として勤務。 現場経験を活かして、介護実習を通して得られる経験を介護福祉士に必要な基礎知識の理解へとつなげていくとともに実習に臨む際の基本姿勢や基本的視点等の教授を展開する。 介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。 また、介護福祉士に必要とされる、介護過程の思考力、実践力の基礎を養う。									
年次	1学年	開講期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	実習施設概要理解、実習帰校日									
到達目標	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。									
使用教材					評価方法	筆記				
授業内容										
1	総合演習オリエンテーション				9	日誌まとめ方、Ⅰ-①オリエンテーション				
2	実習Ⅰ-①、②目標の説明				10	実習Ⅱ-①【帰校日】対象者、病気と服薬調べ				
3	【実習施設の概要】通所介護				11	実習Ⅱ-①【帰校日】対象者情報整理				
4	【実習施設の概要】通所リハビリテーション				12	実習Ⅱ-①【帰校日】情報収集についてGW				
5	【実習施設の概要】小規模多機能型居宅介護				13	実習Ⅱ-①【帰校日】情報収集についてGW				
6	【実習施設の概要】特定施設				14	【帰校日】情報シートの確認				
7	【実習施設の概要】養護老人ホーム				15	【帰校日】情報シートの完成				
8	介護実習の流れ、日誌の書き方									
特記事項										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護実習Ⅰ（1年前期）				担当教員名	専任			
実務経験等											
年次	1学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		（前期）実習Ⅰ施設見学実習 （後期）実習Ⅰ居宅実習 実習Ⅱ施設実習									
到達目標		地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。									
使用教材							評価方法	施設実習指導者評価による			
授業内容											
実習 Ⅰ－① 60時間	見学中心の施設理解・利用者理解										
実習 Ⅰ－② 88時間	一つの施設で継続的に実習。見学及び体験、利用者理解、基本的介護技術の経験を積む。レクリエーションの企画実践										
実習Ⅱ －① 120時間	内容 個別性の理解、変則勤務、多職種理解、情報収集 対象 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護実習Ⅰ（1年後期）			担当教員名	専任				
実務経験等											
年次	1学年	開講期		種別	演習	時間数	208時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要		（前期）実習Ⅰ施設見学実習 （後期）実習Ⅰ居宅実習 実習Ⅱ施設実習									
到達目標		地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。									
使用教材							評価方法		施設実習指導者評価による		
授業内容											
実習 Ⅰ－①	見学中心の施設理解・利用者理解										
60時間											
実習 Ⅰ－②	一つの施設で継続的に実習。見学及び体験、利用者理解、基本的介護技術の経験を積む。レクリエーションの企画実践										
88時間											
実習Ⅱ －①	内容 個別性の理解、変則勤務、多職種理解、情報収集 対象 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支援施設										
120時間											
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	発達と老化の理解（1年後期）			担当教員名	野本 義則				
実務経験等		<p>・病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務（入院作業療法、精神科デイケア、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務（入所リハビリテーション、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）。</p> <p>保健医療学にて博士号を取得。作業療法士として長年病院及び介護老人保健施設に従事した経験に基づき、コミュニケーション論、発達と老化の理解、障害の理解、介護の基本Ⅰについて講義を行う。</p>									
年次	1学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		高齢者の老化による変化と代表的な疾患の理解、それに伴う心理的变化の理解。									
到達目標		人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。									
使用教材		「発達と老化の理解」中央法規出版 2200円					評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	老化とは				9	高齢者と健康（歯・口腔・摂食障害など）					
2	老化に伴うこととからだの変化と日常生活①				10	高齢者と健康（がん）					
3	老化に伴うこととからだの変化と日常生活②				11	高齢者と健康（生活習慣病）					
4	高齢者と健康（脳血管障害）				12	高齢者と健康（生活習慣病）					
5	高齢者と健康（脳血管障害）				13	高齢者と健康（アレルギー・ヒフ疾患）					
6	高齢者と健康（高次脳機能障害）				14	高齢者と健康（感覚器の疾患）					
7	高齢者と健康（特定疾患、リウマチなど）				15	高齢者と健康（性差・泌尿器など）					
8	高齢者と健康（パーキンソン病など）										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	認知症の理解（1年後期）				担当教員名	松橋 あけみ			
実務経験等	デイサービスにて相談員として6年、地域包括支援センターに社会福祉士として11年勤務。社会福祉士として相談業務にあっていた経験から、高齢になっても、障害があったとしても住み慣れた地域で生活していく為に必要な支援等について理解を深める授業を行う。										
年次	1学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	認知症を取り巻く状況、認知症ケアの歴史や理念等について学ぶ。また、認知症の原因となる主な疾患や症状の特徴を学び、それらによって引き起こされる機能の変化や日常生活への影響について理解する。										
到達目標	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。										
使用教材	中央法規出版 認知症の理解						評価方法	筆記試験			
授業内容											
1	・授業概要の説明 ・認知症の基礎知識について					9	中間テスト、解説				
2	・認知症の全体像をとらえる ・認知症の定義と診断基準 ・初期に生じる生活障害 ・症状の全体、特徴の理解					10	・中間テストの振り返り、 ・認知症の原因疾患の病態や症状の理解				
3	・脳の構造機能と症状の関係の理解 ・認知症と区別すべき状態の理解					11	・認知症の原因疾患（アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、その他）				
4	・不安・喪失感を抱く理由の理解					12	・治療薬の作用機序や副作用の理解 ・予防の考え方、危険因子、保護因子の理解				
5	・事例を用いて症状、生活障害の概要の理解 ・ビデオ「認知症の体験」					13	・認知症の施策の流れと今後の方向について ・認知症を取り巻く状況の理解				
6	・中核症状とは何かを理解 ・生活障害の理解					14	・認知症の理念と倫理、人とのかかわりについて				
7	・BPSDの概要と背景要因の理解					15	認知症の人の思いを理解し、支援内容の基本について				
8	・認知症の診断要件、重症度の評価の理解										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	ところとからだのしくみ (1年前期)	担当教員名	専任						
実務経験等	看護師として病院,介護老人保健施設や特別養護老人ホームなどの勤務した実務経験を活かし、介護福祉士に必要なとなる、医学的な知識の教授を目的とした授業を行う。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	60時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要	食事・清潔保持・排泄・睡眠・に関連したところとからだのしくみ 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ										
到達目標	<p>人体の正常な構造、とはたらきを理解することで、介護サービス提供時の身体的側面からの根拠を考える力を身につける。</p> <p>介護時の利用者、介護者双方の安全・安楽な介護方法の根拠を身体的側面より考えることができるようにする。また、具体的な生活支援の場面で、科学的で、最善な方法を選択できる力を身につける。</p>										
使用教材	中央法規出版 介護福祉士養成講座「ところとからだのしくみ」			評価方法	筆記試験						
授業内容											
1	食事に関連したところとからだのしくみ①			9	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ③						
2	食事に関連したところとからだのしくみ②			10	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ④						
3	食事に関連したところとからだのしくみ③			11	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ⑤						
4	食事に関連したところとからだのしくみ④			12	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ⑥						
5	食事に関連したところとからだのしくみ⑤			13	排泄に関連したところとからだのしくみ①						
6	食事に関連したところとからだのしくみ⑥			14	排泄に関連したところとからだのしくみ②						
7	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ①			15	排泄に関連したところとからだのしくみ③						
8	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ②										
特記事項	授業中に小テストを行い期末試験の点数に加味する 授業の欠科・提出物・授業中の態度により減点する										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	こころとからだのしくみ(1年後期)A班	担当教員名		専任					
実務経験等	看護師として病院に勤務した実務経験を活かし、介護福祉士に必要な、医学的な知識の教授を目的とした授業を行う。										
年次	1学年	開講期		種別	講義	時間数	60時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要	食事・清潔保持・排泄・睡眠・に関連したこころとからだのしくみ 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ										
到達目標	<p>人体の正常な構造、とはたらきを理解することで、介護サービス提供時の身体的側面からの根拠を考える力を身につける。</p> <p>介護時の利用者、介護者双方の安全・安楽な介護方法の根拠を身体的側面より考えることができるようにする。また、具体的な生活支援の場面で、科学的で、最善な方法を選択できる力を身につける。</p>										
使用教材	中央法規出版 介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」					評価方法	筆記試験				
授業内容											
1	排泄に関連したこころとからだのしくみ④				9	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ⑥					
2	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑤				10	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①					
3	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑥				11	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②					
4	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①				12	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③					
5	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②				13	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ④					
6	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ③				14	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑤					
7	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ④				15	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑥					
8	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ⑤										
特記事項	授業中に小テストを行い期末試験の点数に加味する 授業の欠科・提出物・授業中の態度により減点する										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	こころとからだのしくみ(1年後期) B班	担当教員名		専任					
実務経験等	看護師として病院に勤務した実務経験を活かし、介護福祉士に必要な、医学的な知識の教授を目的とした授業を行う。										
年次	1学年	開講期		種別	講義	時間数	60時間	単位数		区分	必修
授業概要	食事・清潔保持・排泄・睡眠・に関連したこころとからだのしくみ 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ										
到達目標	<p>人体の正常な構造、とはたらきを理解することで、介護サービス提供時の身体的側面からの根拠を考える力を身につける。</p> <p>介護時の利用者、介護者双方の安全・安楽な介護方法の根拠を身体的側面より考えることができるようにする。また、具体的な生活支援の場面で、科学的で、最善な方法を選択できる力を身につける。</p>										
使用教材	中央法規出版 介護福祉士養成講座「こころとからだのしくみ」					評価方法	筆記試験				
授業内容											
1	排泄に関連したこころとからだのしくみ④				9	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ⑥					
2	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑤				10	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①					
3	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑥				11	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②					
4	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ①				12	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ③					
5	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ②				13	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ④					
6	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ③				14	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑤					
7	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ④				15	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ⑥					
8	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ⑤										
特記事項	授業中に小テストを行い期末試験の点数に加味する 授業の欠科・提出物・授業中の態度により減点する										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	特別活動（1年前期）	担当教員名	手塚 ミユキ						
実務経験等	障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。 また、介護福祉士に必要とされる介護過程の思考力、実践力の基礎を養う。										
年次	1学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	学校行事への参加に伴う各種話し合いや、チームワークの育成										
到達目標	社会人教育の一環として、学校行事や外部への見学等の活動を通じ、社会性・協調性を学ぶ。また、クラス全員が同じ目的へ協力していくことで、クラス内のコミュニケーションを円滑にすることを目的とする										
使用教材						評価方法	出席状況、参加姿勢により評価				
授業内容											
1	クラス委員選出					9	レクリエーション大会 当日②				
2	校内ルールの理解 学生の手引き読み合わせ					10	レクリエーション大会 当日③				
3	校内ルールの理解 学生の手引き読み合わせ					11	かながわ大会参加①				
4	実習用エプロン 名前つけ					12	かながわ大会参加②				
5	レクリエーション大会 話し合い・準備①					13	文化祭話し合い・準備①				
6	レクリエーション大会 話し合い・準備②					14	文化祭話し合い・準備②				
7	レクリエーション大会 話し合い・準備③					15	文化祭話し合い・準備③				
8	レクリエーション大会 当日①										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	特別活動（1年後期）	担当教員名	専任					
実務経験等	障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。 介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。 また、介護福祉士に必要とされる介護過程の思考力、実践力の基礎を養う。									
年次	1学年	開講期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	学校行事への参加に伴う各種話し合いや、チームワークの育成									
到達目標	社会人教育の一環として、学校行事や外部への見学等の活動を通じ、社会性・協調性を学ぶ。また、クラス全員が同じ目的へ協力していくことで、クラス内のコミュニケーションを円滑にすることを目的とする									
使用教材						評価方法	出席率、参加姿勢により評価			
授業内容										
1	文化祭準備・話し合い①			9	文化祭2日目②					
2	文化祭準備・話し合い②			10	文化祭2日目③					
3	文化祭準備・話し合い③			11	介護過程 課題①					
4	文化祭準備・話し合い④			12	介護過程 課題②					
5	文化祭1日目①			13	介護過程 課題③					
6	文化祭1日目②			14	2年生 実習介護過程発表会 聴講					
7	文化祭1日目③			15	2年生 実習介護過程発表会 聴講					
8	文化祭2日目①									
特記事項										